

山風

やまかぜ

平成21年3月17日

春彼岸号 第38号

発行：日蓮宗 本立寺

〒192-0902 東京都八王子市上野町11-1

電話 042-622-2262

FAX 042-622-2106

Eメール honryuji@oak.ocn.ne.jp

ホームページ http://www.honryuji.com

出会いと別れ

住職 及川玄一

春は出会いと別れの季節です。寺で修行している若い者も新たな道へ旅立っていきます。前から分かっていることではありますが、何となく寂しいものです。

考えてみれば、私たちの人生は出会いと別れの積み重ねです。人生の最初の出会いは母親でしょうか。今日まで、どれだけの人と出会い、別れてきたのでしょうか。

鶏が先か卵が先かと悩ましい問いかけをされることがありますが、出会いと別れにおいては誰しも出会いが先と答えるでしょう。でも、少しひねくれた考え方をすれば別れがあったからこそ次の出会いが生まれたともいえなくもありません。

多くの別れには痛みや悲しみがつきまといまいます。仏教ではそれを愛別離苦（あいべつりく）といっています。四苦八苦の苦しみのひとつです。死による人と人の別れだけでなく、長年愛用した湯飲みを壊

してしまったり、愛着のある装飾品をなくしてしまつたなどということも含む、



梅が咲き、春が香って参りました。

別離や喪失にともなう苦しみです。しかし、すべての別れが苦しみをともなうかといえ、そうともいえません。ときには別れを待ち望むこともあるでしょう。学校を卒業することによっていじめを受けていた相手から離れられることができるなど、怨憎会（おんぞんかい）苦からの解放です。怨憎会苦とはやはり四苦八苦のひとつで、忌み嫌う人も付き合い合わねばならないことから生じる苦勞のことです。

愛別離（あいべつり）苦も怨憎会苦も私たちが生きているかぎり、常に生じる事象です。残念なことに私たちはそれと無縁でい

ることができません。

出会いがあれば必ず別れがあります。別れを避けられないのであれば、どのように私たちが辛い別れに相対し、それを乗り越えていけばよいのでしょうか。

私たちがよく知っている「一期一会」という言葉は愛別離苦という宿命を私たちそれぞれが背負っているという理解の上でできた言葉です。

会うことができている時間をその相手と深く、しっかりと過ごすことが大切だと教えます。もちろん相手との時間が深ければそれだけ別れの辛さは大きくなるのですが、流す涙の量は多ければ多いほど悲しみを洗い流してくれるのです。そして、失くしたものは深いつながりのものほど自分が生きていく上で大事な心の中にとりこめ、しっかりと残され、私たちの心を飾り、その魅力が次の出会いを良い出会いにする力として自分を助けてくれるのです。出会いと別れ、どちらも私たちにとって大切なときです。

お彼岸のご案内

三月十七日(火)〜二十三日(月)

お彼岸はご先祖様と心通わす良い機会です。ご家族でお墓参りをし、ご先祖様に日頃の感謝の気持ちを込めて手を合わせましょう。期間中は、境内でお花・お線香を販売しています。どうぞご利用ください。

堤婆達多品 第十二

「このお経は題名になっている「堤婆達多」という人物の成仏について説かれています。

堤婆達多はお釈迦様の従兄弟ですが、教団の破壊やお釈迦様の殺害を企むなどした、いわゆる「悪人」とされる人です。

しかし、そのような悪人でさえも成仏できるというのが、このお経のひとつの主題です。

では、なぜ悪人ですら成仏できるのでしょうか。それは、「悪人」が成仏のきっかけにもなるからです。お釈迦様は、堤婆達多が悪い行いをしたお陰で、それさえも受け入れる大きな慈悲の心、悟りを得ることが出来ました。すなわち自身の成仏は堤婆達多のお陰でもあると仰っているのです。



悪人成仏の成仏のきっかけにもなるからです。お釈迦様は、堤婆達多が悪い行いをしたお陰で、それさえも受け入れる大きな慈悲の心、悟りを得ることが出来ました。すなわち自身の成仏は堤婆達多のお陰でもあると仰っているのです。

り、私たちの心の中には優しく人を思いやる善い心も、欲や嫉妬、怒りなどの悪い心も、同居しているのです。他人の行いはよく目に付くものですが、まずは自身に目を向けなければなりません。きちんと自分の中にある悪い心を見つめて、これでは駄目だと気づき、善い心、柔和な心を持つことが大切であると仏さまや日蓮聖人は教えて下さっているのではないのでしょうか。(吉)

法華経二十八品

◆その教えのポイント◆

悪い行いを決して善としていたわけではありませんが、悪から善が生まれることもあり、反面教師というように悪い行いから学ぶことも大いにあるということです。また、「悪人」や「悪い行い」とは他人や、他人の行いだけででしょうか。

日蓮聖人は地獄や仏の世界はどこにあるのかという問いかけに対して、自分の心の中にあるのだと仰っています。つま

山務員退寺

よし だ ち こう
吉田 知 弘 (25)

「石の上にも三年」という諺がありますが、私にとって本立寺は、私の未熟でおぼつかない足下をしっかりと支えてくれる、そんな温かく大きな石だったように思います。

4月より御前さまのご厚意でサンノゼ(アメリカ)、サンパウロ(ブラジル)、ミラノ(イタリア)、ペナン(マレーシア)のお寺で3ヶ月ずつ約一年間、海外での布教活動を研修させて頂くこととなりました。



この三年の間、本立寺で沢山の方々との時間を頂く中で、同じ日蓮宗でも地域やお寺によってスタイルが違うことを知り、そこから沢山のことを学ぶことが出来ました。お寺だからこそ出来ること、また、やらなければいけないことがたくさんあることも教えられました。そんな中でいつの頃からか海外へボランティアに行き、世界を見たいと思うようになりましたが、人のために役立つ資格や技術を持っていない私は断念するしかなく、迷っていたところに御前さまから「僧侶こそ人の役に立つべき仕事ではないのか」と研修のお話をいただき道が開けた次第です。

このように私が海外へと考えられるようになったのは、偏に温かくご指導くださった御前さまをはじめ、本立寺に関わる沢山の方々のお陰であります。このご恩に報いるためにも海外で見たこと学んだことを何かの機会にお伝えできればと思います。最後になりましたが、お世話になった皆様方、誠にありがとうございました。

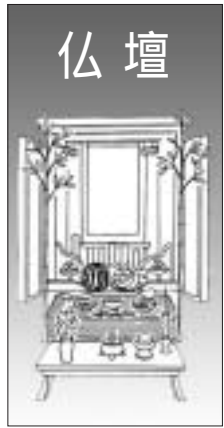
本立寺ホームページ
<http://www.honryuji.com>

学無学

おしえて下さい。

Q 亡くなった人がいなくても家に仏壇をお祀りしてもよいのでしょうか？

A かまいません。とてもよいことかと思いません。



仏壇

仏壇といえば、「ご先祖さまをお祀りするところ」と考えている人が多いと思います。本来仏壇は、「ご本尊をお祀りするところ」です。ご本尊のもとにご先祖さまの位牌をお祀りすることによって、

ご先祖さまが仏さまの世界の住人となっていることを示すのです。仏壇の前でお題目を唱えることによって、ご先祖さまへの供養になります。仏壇はお寺の本堂を小さくしたものであり、その家の中心になりますので、家庭を持ち分家した場合も仏壇をお祀りすべきだと思えます。仏壇にご本尊を安置し、朝にお茶、水を上げ、家族でお経を読むなどして、家庭の中心をつくりたいものです。特にお子さんのいる家庭では、幼い頃から共にこの様な時間をもちたいものです。毎日のお参りの積み重ねが、まじこらに生きる姿勢を生むのです。

ニュースと 行事案内

線香

お墓参りでボランティア

この1月から線香を1束1000円で販売しております。

この線香は障害者施設（小平市のぞみ作業所）で障害者が作業に携わったものです。代金の1000円はすべて施設に寄付されます。

お参りの方のご理解とご協力が大きな支援活動となります。今迄よりもご負担をおかけしますがよろしくお願いいたします。

墓所の中の植木について

当山境内にあります各お檀家様方の墓所の植木につきましてお願いとご相談を申し上げます。

当山におきましては年間を通して墓所の清掃に努めております。また、お盆の前には造園業者に依頼し、各家墓所内の植木の刈り込みなどをさせていただいておりますが、よく見回りますと墓所の大きさに対して大きくなりすぎた植木がかなり見受けられます。植木は大きくなりすぎると墓石や囲いを根が持ち上げて墓所を損傷させたり、隣接する墓所に迷惑をおかけするようないこともございます。植木にも故人の思い出などがあり処置することがはばかられることもおありかと思いますが、できますればまずは各家の責任においてご自分のお墓の管理をしていただきますよう、お願いいたします。

なお、六月中旬頃に植木屋さんが入る予定です。事前ににご相談下さればその時にあ

わせ、当方から業者に作業してもらつようにいたします。

清々しい墓地環境を守るためにご協力を願います。

地場産業の活性化

二年前から本立寺では奥多摩産杉材の塔婆を使用しています。

産業として山が生かされれば、土砂崩れや洪水などの防災や花粉症の対策にもなり、地場産業の活性化にも繋がります。また、外国の天然林の減少も防ぎます。日本の杉材は、外材に比べて色や木目などで多少劣りますが、皆さまのご理解ご協力をいただき、微力ながらも地場産業の活性化、環境問題に貢献させていただきます。

京都「日蓮展」

日蓮と法華の名宝

華ひらく京都町衆文化

本年10月10日(土)～11月23日(月)まで、京都国立博物館特別展示館において、「日蓮展」が開催されます。

日蓮聖人が『立正安国論』を鎌倉幕府に献じてから今年で750年の節目を迎えます。それを記念し、『立正安国論』を軸に、京都十六本山を中心とした諸寺伝来の多くの宝物を一堂に展示します。鎌倉新仏教の一翼を担った日蓮聖人の足跡をたどり、その門下の活躍、特に孫弟子にあたる日像上人の京都布教開始以降、公家文化と並ぶ町衆文化の形成に果たした日蓮諸宗の大きな役割を紹介します。

読経教室

読経教室の春の部が開催されます。初級では、お経を読むときの姿勢、声の出し方、正しい合掌などの基礎を中心に、「妙法蓮華経」の意味や読み方を学びます。ぜひ、お申し込み下さい。(中級は初級修了者対象)

読経教室 初級(全5回)

- 1回 5月4日(月) 2回 5月11日(月)
- 3回 5月18日(月) 4回 5月25日(月)
- 5回 6月1日(月)

読経教室 中級(全5回)

- 1回 3月28日(土) 2回 4月4日(土)
- 3回 4月11日(土) 4回 4月18日(土)
- 5回 4月25日(土)

法華経写経会

お寺の静かな本堂で、お香の香りで心身を浄めて経文と向かい合います。書き上がった写経に様々な願いを込めて、お寺に納経することをお勧めしています。お気軽にご参加下さい。

- 4月3日(金) 5月7日(木) 6月4日(木)
- 7月3日(金) 8月6日(木) 9月3日(木)
- 10月1日(木) 11月5日(木) 12月3日(木)

今よみがえる仏塔 身延山五重塔完成

かつて身延山には法華経信仰の象徴としての五重塔が輝いていました。



よみがえった五重塔に是非お参りいただきたく思います。

別紙のごとく東京西部地区の寺院をとりまとめる宗務所の主催で6月2日(火)に参拝旅行が計画されています。本立寺のお檀家様方にもご参加いただきたく、ご案内申し上げます。

今般、当山のお檀家をはじめ、全国から寄せられた浄財をもつて、五重塔復元工事が無事竣工し、去る2月26日には入佛遷座式を執り行い、5月13～17日には落慶法要が執り行われます。

法華経を読む・聞く・感じる

住職が東武カルチュアスクールで講座を開設

住職は四月九日から毎月第二、四木曜日に新宿・常圓寺を会場に仏教伝来以来もつとも日本人に読まれてきた「法華経」を学ぶ講座を開設します。お経の基礎である読経を中心に分かりやすい解説も加え講義します。

講座は東武カルチュアスクールの主催で行われます。受講を希望されます方はお寺ではなく、左記までご応募下さい。

講座名 「法華経を読む・聞く・感じる」

曜日・時間 四、五、六日

第二、四木曜日 午後二時半～三時

会場 新宿・常圓寺

(新宿区西新宿七 二二五)

受講料 一八、九〇〇円(三ヶ月分)

教材費 三二五円

問い合わせ 東武カルチュアスクール

〇三 三九八八 四八五五

「七福神めぐり」多数の参詣者



今年も元旦より1月10日までの期間中、七福神めぐりにおよそ2万人の参拝者が訪れ、大変賑わいました。

た。今年から加わった「寿老尊」のお寺、宗格院を探すのに苦労された方もいたようですが、今まで以上に回りやすくなったと好評でした。まだ歩かれたことがない方は来年はぜひともお参りしてみてください。

防災訓練

昭和24年1月26日、奈良法隆寺金堂から出火し、国宝の十二面壁画が焼失したことを契機に、昭和30年から、1月26日が「文化財防火デー」と定められました。

1月26日、本立寺に於いても八王子消防署第4隊、八王子市消防団第2分団のご指導のもと自衛消防訓練が実施され、地域の

「花見題目講」ご案内

仏教では、お釈迦さま誕生の日を「花まつり」としてお祝いします。本立寺ではこの日に「花見題目講」を行います。花まつりの法要でお釈迦さまの誕生を祝い、その後、落語と花見の宴で楽しいひとときを過ごします。



4月8日(水)

- ・釈尊降誕会 11時
- ・落語 11時半 柳家はん治師匠
- ・お花見 12時半

参加希望の方は前もってお申し込み下さい。

みなさん、近隣の保育園のチビ子が多数参加しました。

最近では2月半ばにオーストラリアで大きな火災が発生し、多数の犠牲者ができました。日頃から火災への意識を高めるとともに、地域での防災への取り組みが大切であることを再確認しました。



暦

こよみ

4月(卯月)

- 2日 読誦行 (午後二時)
 - 4日 読経教室 中級第二回 (午後二時)
 - 3日 写経会 (午後二時)
 - 8日 釈尊降誕会 花見題目講 (午前十一時)
 - 11日 読経教室 中級第三回 (午後二時)
 - 18日 読経教室 中級第四回 (午後二時)
 - 22日 読誦行 (午後二時)
 - 25日 読経教室 中級第五回 (午後二時)
 - 28日 立教開宗会 (午前七時)
- 建長五年(一二五三)日蓮聖人が初めてお題目を唱えた日

5月(皐月)

- 2日 読誦行 (午後二時)
 - 4日 読経教室 初級一回目 (午後二時)
 - 7日 写経会 (午後二時)
 - 11日 読経教室 初級二回目 (午後二時)
 - 12日 題目講 伊豆法難会 (午後七時)
- 弘長元年(一二六二)日蓮聖人は鎌倉幕府によって伊豆に流罪

6月(水無月)

- 1日 読経教室 初級五回目 (午後二時)
- 2日 読誦行 (午後二時)
- 4日 写経会 (午後二時)
- 12日 題目講 (午後七時)
- 22日 読誦行 (午後二時)



希望者募集

墓地・室内墓

ただいま当山に墓地をお求めになる方(永代使用者)、並びに、釈迦堂内の「室内墓」を使用なさる方を募集しています。お気軽にご相談下さい。

永代供養塔

現在ある先祖代々の墓を将来継承することが出来ない方や新たに墓を作っても後継者がいない方のための共同の墓所が釈迦堂に併設される「永代供養塔」です。この供養塔に埋葬された方のご供養は、お寺が永代に渡って責任を持って行います。ご使用に当たっては永代供養料をお納めいただくこととなります。

納骨壇

ご遺骨を一時的にお預かりするための「納骨壇」が釈迦堂内に設置されています。この納骨壇は檀家以外の方もご利用いただくことができます。

お問い合わせは寺務所までお願いいたします。